

予定。  
面積は2万  
処理能力は  
㎡/日。  
束定。来年  
向書の公表  
の募集。22  
業者の決定  
M B R法に  
は、23〜24  
生棟の撤去  
新施設の説  
新水処理  
30年の  
な時期はま  
来年度の早  
して現在検  
る。



説明会のもよう

このほか、コンクリートメンテナンス協会が現在

鉄筋を埋設したコンクリート試験体を著しい塩害環境下に置き、補修材や補修工法がどの程度の効果を発揮するかを毎年経過観察している。

コンクリートメンテナンス協会の徳納剛会長(福徳技研)と峯松昇司副会長(井上建設)は3日、コンクリート工学会のメンバーや芝浦工業大学の学生らとともに長崎市にある軍艦島(端島)を訪れ、塩害環境下における補修材の効果確認実験に立ち会った。

# 軍艦島で曝露試験状況調査 「亜硝酸リチウム優れた効果」

コンクリートメンテナンス協会

開発中の新材料である亜硝酸リチウム含有塗料の実験も開始した。0〜3回まで塗布回数を変えた試験板を同島の環境に曝露し、今後試験体と合わせて観察を行っていくという。徳納会長は「試験体の



測定に立ち会う徳納会長(右)

正式な測定結果は後日出るが、当会が設置した亜硝酸リチウム庄入の試験体は他と比較して鉄筋の腐食がほとんどなかった。優れた防錆効果が確認されたと思う」と満足気。「軍艦島の崩壊は年々進んでおり、コンクリートが永遠の構造物ではないと思ひ知らされる。維持管理の重要性を再認識した」と話していた。

▽二級河川瀬野川水系瀬野川河川災害復旧(平成30年災害第4262成53号)＝和田組、83点

線道路災害復旧(平成30年災害第2148〜2153号)＝和田組、83点

# 新しい学校空間をサポート

